


ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第6次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな	にしにほんごうう くらしき・たかはしがわりゆういき いりょうほけんふくしていきょうたいせいしえん		
団体名称	西日本豪雨 倉敷・高梁川流域 医療保健福祉提供体制支援プラットフォーム Kurashiki area medical & care Reconstruction Association (KuraRA) 「クララ」		
代表者職名	代表	ふりがな やまぎし あけみ	
		代表者氏名	山岸 暁美
ふりがな	おかやまけん くらしきし しんでん		
団体住所	岡山県倉敷市新田		
電話番号	—	F A X	なし
設立年もしくは活動年数	平成30年8月24日		
スタッフ数	有給スタッフ 0 名・無報酬スタッフ 0 名・ボランティア等 5 名		
団体HP(あれば)	なし		
FBページ(あれば)	なし		
CANPAN登録	<input type="checkbox"/> なし ・ <input type="checkbox"/> あり (星 つ) 【団体ID: _____】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

申請事業の内容

事業種類・内容 該当する活動に○をつけてください。	<input type="checkbox"/> 1. 災害支援・復興活動(真備エリア) <input type="checkbox"/> 2. 災害支援・復興活動(県内各地)	
事業名 (もしくは事業概要)	西日本豪雨 倉敷・高梁川流域 医療介護福祉提供体制支援プラットフォーム 「クララ」	
活動(予定)期間	平成30年8月24日 ~ 平成31年3月31日	
活動(予定)場所	倉敷市真備地域をはじめ、高梁川流域の被災地域 活動本部: 倉敷市休日夜間救急センター (倉敷市新田 2689)	
受益者数	直接受益者 (_____ 名) 間接受益者 (真備町民2万3千名、高梁市民3万名、新見市民3万名 他)	

事業の必要性（背景）と目指すゴール（目指す状況）

- ・現状や支援対象者の状況（支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入）
- ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか

◆医療保健福祉の提供機関を支援

倉敷市連合医師会は、西日本豪雨により甚大な被害を受けた倉敷市を含む高梁川流域の医療保健福祉提供体制支援プラットフォーム：Kurashiki area Medical & Care Reconstruction Association (KuraRA)：「クララ」を創設した。クララは、直接の被災者支援でなく、被災地の医療保健福祉を提供する機関の早期復旧・復興のための支援を行い、または適切な支援に繋げる機能をもつプラットフォームである。

日常的な運営は、倉敷市連合医師会のサポート、そして地元医療機関のサポートを受けつつ、在宅医学会会員が運営に当たる。コミュニティ再建、生活再建のフェイズにおいて、普段から在宅医療や地域づくりに従事する我々が外部支援としてできることは何か？災害慢性期における地域包括ケアシステムの再構築に資する外部支援のパッケージ化も視野に、真備の、そして倉敷の皆さまと主に活動を進めているところである。

被災地に、そして被災された方々から学ばせていただいたことを次の機会に活かせるようにすることは我々医療者にとっての使命の1つである。日常臨床で患者さんに学んだことを次の患者さんに活かすそれと同じように…

災害は社会の弱点をあぶりだす。平時にできないことを有事に行うことは難しい。最大の災害対策は、平時からの住民・行政・地域の医療福祉をはじめとする各種資源との連携と協働により、災害弱者を想定し、彼らを守っていくことであり、実はこれは地域包括ケアシステム構築のプロセスに合致すると考える。

現状、車両ニーズへの支援、医療介護ニーズのトリアージ、施設復興のための支援団体（NGO等）とのマッチング、医療介護ボランティアの施設派遣とマネジメントなどの活動を行っているが、今後も災害慢性期のコミュニティ再建、生活再建のフェイズにおいて、医療保健福祉専門職ができることを、そしてさまざまな垣根を越えて連携することで可能になることを模索していく。そしてまた発災から休む間もなく走り続け地域を、そして住民の方々を支えてくださっている行政職の方々や医療保健福祉専門職の方々の情報共有および課題解決のプラットフォームとして機能できればと考えている。

現状の課題を共有し解決策を探るプロセスや、解決策を職能団体や機関の長により具現化するための議論の場を定期的に設けることで、真備町をはじめ被災した地域の医療保健福祉提供体制の平常化のスピードをあげ、より良い地域包括ケアシステムの再構築に繋がることと確信している。

事業の実施内容

- ・どのようなことをいつ（回数等）やるのか

1. ニーズの把握と必要な支援へのマッチング・トリアージ（継続）

- 1) 状況把握・ニーズ調査：高梁川流域における医療・介護機関の被災状況、支援ニーズの把握
- 2) ニーズと支援のマッチング・トリアージ：各種ニーズを適切な支援に紹介する、つなぐ

◆車両支援ニーズ◆訪問診療ニーズ◆人材ニーズ◆医療介護ニーズ◆医療介護施設の支援ニーズ等

2. 地域の課題の共有と今後の対策を議論する場の設定（平成30年度は5回：2回は既に終了）

3. 真備町からの医療介護人材流出への対策（継続）

※ 被災地域に伴走する形で、変わりゆくニーズに対応する

事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

■自団体の取り組みメンバー：

西原 洋浩（倉敷市連合医師会会長）
今井 博之（倉敷市連合医師会副会長）
山岸 暁美（慶應義塾大学医学部）
篠原 淑子（倉敷市保健医療センター）

■連携先：

- ・岡山県、倉敷市等の行政及び、県保健所、市保健所、地域包括支援センター等の公的機関、及び関係医師会
- ・被災した地区で事業展開する医療・介護・福祉を提供する法人・団体等（例：老健ライフタウンまび等）
- ・被災地域を支援する医療・介護・福祉を提供する法人・団体等（例：病院協会加盟医療機関、倉敷市社会福祉協議会等）
- ・関係大学、学会等（日本在宅医学会等）

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

本事業は、罹災した医療機関・福祉施設等が提供する医療・保健・福祉サービスの提供が再開し、住民が地域での生活を円滑に送ることができる体制が整備されること目標としており、助成期間後も目標が達成されるまで事業を継続して実施する予定である。将来的には、各地域が自主的に地域における在宅医療や在宅での療養を、地域で支えるネットワーク、地域包括ケアシステムの再構築の一助となることを目指す。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

災害慢性期のコミュニティ再建、生活再建のフェイズにおいて、在宅医療や地域づくりに従事する地元の医療介護専門職と外部支援が協働してできることは何か？今回の取り組みや、この取り組みの記述やまとめにより、地域包括ケアシステムの再構築に資する支援のパッケージ化も可能になると考えている。